

## 「長崎市幹部による性暴力事件の被害者を支える会」ニュース（速報版）

## 元長崎市幹部を証人尋問

## 一貫性なく市の矛盾露呈

## 第6回口頭弁論報告

2007年に当時の長崎市原爆被爆対策部長から性暴力を受けたとして女性記者が市に損害賠償を求めている訴訟の第6回口頭弁論が5月18日、長崎地裁(天川博義裁判長)で開かれました。虚偽のうわさを流したとされる元長崎市会計管理者の証人尋問が行われました。この日は19年4月の提訴後、原告が初めて出廷。ついでで仕切られた席で証言を聞きました。弁論後は原告側弁護士がレクチャーを開き、多くの記者が参加しました＝写真＝。



この事件を巡っては、日弁連が14年に①元部長が取材中の記者に性暴力を振るった②元部長の死後、市幹部が虚偽の風説を流し、二次被害を生じさせた、の二つを認定。市に救済を勧告していますが、市は応じていません。

この日出廷した元会計管理者は部長の友人で週刊誌の取材に応じ、市の調査には「合意の上の行為だったと思う」と証言していました。

07年当時の市の調査記録には、性暴力事件直後に原告が元会計管理者の職場を訪れ、「関係ができました」と話したことになっています。さらに、「(元部長と)関係ば持ったというて、俺も誘われたとぞ」という元会計管理者の証言が記載されていますが、原告は事件後に元会計管理者と会ってさえないと話しています。

尋問で原告側弁護士に「性的に誘われたのか」と問われると、元会計管理者は「いいえ」と否定。「飲みに誘われたということか」と聞かれると「はい」と答えました。

このように市の調査や週刊誌の取材に答えた内容と矛盾する点が証言でいくつも明らかになり、市の記録の誤りを認めるなど、一貫性の無さや当時の市の記録に信用性がないことを強く印象付けました。

**原告コメント** 嘘ばかりでしたが、問題の人物が出廷し証言しました。加害者と直前まで会っていて、自殺している姿も見た人なので、「加害者と女性記者の間で本当は何があったかを知る人だ」と長年、当地で思われていたようです。人の死を利用して虚偽を流す、それを行政や議会があっけなく許す風土が長崎にはあります。反省しない被告を見ることは被害者にとって苦痛ですが、それでも無事に提訴1年を迎えることができました。皆様の支えがあってこそこの達成です。お礼申し上げます。

## 週刊誌取材、市議が依頼

また、元会計管理者は、市の代表監査委員だった2010年に現・市議会議長らと野球賭博をしていたことが発覚。責任を取る形で、任期途中の同年10月に辞表を提出。退職しています。今回の尋問で、元会計管理者は週刊誌の取材に応じたきっかけを「長崎市議のある方から会ってくれとお願ひされたから」と証言しました。

長崎市議会では元会計管理者が話しているような風説が事件直後から広がっていて、昨年7月の一般質問で性被害に向き合わない市の姿勢を追及する女性議員に対し、「被害者はどっちか」という被害者を中傷するヤジが飛ぶ問題が起きています。原告側弁護団や新聞労連が発言者を特定するように議長に申し入れましたが、十分な調査も行われぬまま議長は調査打ち切りを表明しています。

第6回口頭弁論は当初、4月22日に予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響で5月18日に延期され、一般傍聴を5席に限定して開かれました。今後、証人尋問を伴わない口頭弁論は電話会議で進められる方針で、次回の弁論期日は未定です。原告側は今秋以降、田上富久長崎市長の証人尋問を検討しています。

## 長崎市幹部による性暴力事件の被害者を支える会

●新聞労連(東京事務局)

03-5842-2201

[jnpwu@mxk.mesh.ne.jp](mailto:jnpwu@mxk.mesh.ne.jp)

●長崎新聞労組(長崎事務局)

095-845-2951

